

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：84601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350414

研究課題名(和文) 日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究

研究課題名(英文) Existence in Japan and basic research of the native Taiwanese group material and the history

研究代表者

角南 聡一郎(Sunami, Soichiro)

公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：50321948

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：これまで、日本国内の博物館や資料館などに収蔵されている、台湾の先住民である台湾原住民族の民具、考古資料といった物質文化については、断片的な紹介などはあるものの、包括的な調査研究はなされてこなかった。また、それらがどのような素材であるかについても分析されることはなかった。本研究を実施することで、国内所在資料を網羅的に把握できるようになった。また、それらの素材についても非破壊分析の実施をおこなった。これらの情報を資料化し中国文に翻訳し、台湾の博物館関係者、研究者に提供した。

研究成果の概要(英文)：There was fragmentary introduction in a museum in Japan about indigenous people's kept Taiwanese material culture, but comprehensive research wasn't being accomplished. It wasn't also analyzed about what kind of material those were. Domestic located material could be grasped now comprehensively by putting this research into effect. Non-destructive analysis was also put into effect about those material. These information was material-ized, and it was translated into a Chinese sentence, and it was offered to Taiwanese museum person concerned and researcher.

研究分野：民俗学 物質文化研究

キーワード：台湾原住民族 博物館 物質文化研究 学説史

1. 研究開始当初の背景

台湾は1885～1945年の50年間、日本の植民地であった。台湾総督府をはじめとした政治機構の他にも、台北帝国大学など高等教育機関、総督府博物館などの教育施設も設置された。台北帝国大学には、土俗人種学教室が置かれ、調査研究がおこなわれた。その対象はプロトマレー系の台湾原住民族であり、調査に際して資料も収集された。資料の蓄積は同様に総督府博物館でもおこなわれた。この他にも、日本人研究者による調査成果として、日本へと持ち帰られたものも多い。以来、60年以上が経過し、台湾では研究者をはじめとして、台湾原住民族の自己表象のツールとして物質文化資料の基礎的調査研究が盛んになってきている。

日本国内所在の台湾原住民族資料は、国立民族学博物館や天理大学附属天理参考館が館蔵資料調査や展示により、成果が提示されてきている。しかし、こうした代表的なコレクション以外に、どの程度の資料が日本国内に所在し、どのような経緯でいつ将来されたのかについての基礎的調査研究は充分になされているとは言い難い状況にある。

こうした資料は、戦前は「日本」の資料として取り扱われたが、戦後は国外のものとして取り扱われ、文化財として活用や社会還元されることはなかった。そのような中で、2009年に順益台湾原住民博物館で開催された展示に、国立民族博物館所蔵資料が出陳され、「里帰り」として話題を呼んだ。現地の研究者からはどの程度のものがどこにあるのかという質問を受けることもしばしばある。

そうした中、研究代表者らは、これまでに平成21年度たばこ総合研究センター研究助成「台湾原住民嗜好品関係物質文化の基礎的研究」研究(研究代表者)や、文部科学省科学研究費・平成19～21年度基盤研究(C)「20世紀前半に日本人が収集した中国民具についての文化人類学的研究」研究分担者として日本国内所在資料について情報収集をおこなってきた。また、平成21年度日本公園緑地協会委託研究「海洋文化館収蔵資料の調査」(研究代表者 後藤明)のメンバーとして台湾原住民族の物質文化に使用された、植物素材のデータ収集をおこなった。

しかし、未だその全体像は明確になったとはいえない状況にある。埋もれた博物館資料とその来歴を発掘し検証することは、資料の活用や「現地」への学術的還元を可能にすることができると考える。また、当時の調査者が物質文化について聞き取った情報と、モノそのものが有する情報をすり合わせることも可能となるだろう。それは、資料の保存修復や自然資源を台湾原住民族がどのように熟知し、利用してきたかを知るための貴重な手がかりとなると考えられる。

2. 研究の目的

台湾原住民族の物質文化(含む文献資料、画像・映像資料)の所在地についての情報を整理し、その来歴や素材について統合的な検討を試みる。また、使用されている素材について、文献資料及び理化学的検討により、その傾向を示す。

博物館において、海外資料の活用と社会還元は、前述の国立民族博物館などによりなされている。しかし、台湾など旧日本植民地の資料には政治的問題意識などからスポットが当てられてきたとは言い難い。また、その使用素材についても、文献と実物をリンクさせる形での検討は試みられてはこなかった。そうした意味で、本研究を実施することにより、博物館資料として活用できる基礎的情報を提示することができると考えられる。このことにより、台湾の研究者への情報提供が可能となり、モノを通じた学術交流や台湾原住民族の人々との国際交流をおこなうことができる。

3. 研究の方法

(1) 研究分担とその必要性

角南聡一郎(公益財団法人元興寺文化財研究所・研究員・民俗学、物質文化研究)・研究代表者 国内所在・台湾原住民族資料についての総合的研究

山田仁史(東北大学・文学部・准教授・宗教学、台湾研究)・連携研究者 台湾原住民族資料の研究史調査

山田卓司(公益財団法人元興寺文化財研究所・研究員・保存科学)・連携研究者 資料使用素材の科学的分析

本研究では、第一に国内所在・台湾原住民族資料の実態調査、第二にそうした資料の収集経緯についての調査を中心とする。研究代表者は、実態調査と資料収集経緯調査を並行しながら、短期間で実施することは困難である。そこで、研究分担者と連携研究者が専門的部分を分担することにより、効果的かつ効率よく研究を遂行することが可能となると考えられる。代表者は、物質文化研究・民俗学の立場から、実態調査・経緯調査の双方をおこない統合する。連携研究者・山田(仁)は民族学・台湾原住民族研究を専門とする。特に研究史・学史などの研究を得意としており、資料収集・来歴の裏づけとなる研究について明らかにすることが期待できる。連携研究者・山田(卓)は、文化財科学の立場から、文化財など資料の分析を専門とする。分析を実施することにより、非破壊であっても資料に用いられた素材の科学的根拠を提示することができる。本研究組織により、はじめて博物館学、民族学(文化人類学)、物質文化研究、文化財科学の各分野から、国内所在・台湾原住民族資料の現代的意義を総合的に研究す

ることができる。

4. 研究成果

前述の組織で該当資料の検索・情報収集と、これをふまえた博物館における実態調査をおこなった。また、研究史関連の文献調査を実施した。この結果、これまでその存在がほとんど知られていなかった以下のコレクションについて調査を実施することができた。

国立歴史民俗博物館蔵「高山族民俗資料」
東北歴史博物館「杉山コレクション」中の台湾原住民資料
鎌田共済会郷土博物館「宮武辰夫コレクション」

また、台湾において文献収集など予備的調査をおこなった。必要に応じて台湾関係の研究者への聞き取り調査を実施し、資料の来歴を探った。

初年度での調査成果をふまえて、以降は本格的に該当資料を所蔵する博物館で資料の実態調査と、天理大学附属天理参考館、国立歴史民俗博物館にて資料使用素材の分析を実施した。また、日本の資料状況と台湾での資料収集の経緯や資料の活用状況と比較する必要から、台湾調査を実施した。更に最終年度の2016年1月23日、国立民族学博物館にてワークショップを実施し、研究代表者及び連携研究者により調査研究成果を報告するとともに、コメンテーターとして台湾国立史前文化博物館副館長の林志興氏を招き、調査成果の評価を試みた。当日資料には、日本文と中国文を併載し、台湾関係者も成果を理解できるよう工夫した。また、ワークショップには、国内の研究者、博物館関係者の他に、台湾の博物館関係者、原住民族研究者の参加もあり、本ワークショップを実施することで、本科研の成果を台湾に還元すること、国内に所在する台湾原住民族資料をツールとして、日本と台湾の研究者、博物館関係者が交流をおこなうことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

角南聡一郎「金子えりか先生と台湾の「巨石文化」」、『台湾原住民研究』、査読有、18号、2014、pp.176-183
山田仁史「台湾サイシャット族の珠裙」、『郷土博通信』、査読無、6号、2015、pp.5-7
角南聡一郎「宮武辰夫の蒐集と台湾原住民族」、『郷土博通信』、査読無、6号、2015、pp.8-11

〔学会発表〕(計2件)

角南聡一郎「沖縄県立博物館蔵の台湾原住民資料」、日本純益台湾原住民研究会2014年度第1回研究会、国立民族学博物館

角南聡一郎「台湾ヤミ族の土偶用途と造形をめぐって」、日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月30日、大阪国際交流センター

〔図書〕(計2件)

角南聡一郎、山田仁史ほか『台湾原住民研究の射程』、2014、南天書局

角南聡一郎、山田仁史、山田卓司『日本の中の台湾原住民族資料』、2016、(公財)元興寺文化財研究所

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

角南 聡一郎 (SUNAMI, Soichiro)

公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：50321948

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

山田 卓司 (YAMADA, Takashi)

公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：30435903

山田 仁史 (YAMADA, Hitoshi)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90422071